亚巴刚				(Plar	n】 計画		o】 実施						+		【Check】 評価	/	【Action】改善
施策番号 •施策名	SDGs ゴール 番号 主な事業・取組	主要事業所需	事業・取組概要	比斯力力		平価の成果指標 □ D1左度		D2左车	中期	成果の 方向性 ^{予算}	度 R3年度 資 予算額 (千	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千	R1年度 事業	強化・見直した内容	R1年度 局施策	強化・見直した内容
1 -2-	***・取組		公立大学法人の	指標名等 公立大学法人北 一個委員事業年度 会事業務に対する る評価	A (R1年 度)	R1年度 A (計画とおり) A 画り A 声り) A 声り)	R2年度 A (計画どお り)	R3年度 A (計画どお り)	中目 (毎度)	(H)	円		円	評価	(課題に対する改善方法等) 第三期中期計画の実施に向け、引き続き公立大学法人北	評価	(課題に対する改善方法等)
1 (1) 一学の研能実 1 1 1 2 2 な 数 究 の の で き の で き り に り に り り り り り り り り り り り り り り り	公立大学法人 北九州市立大 学運営事業	課	設置金として、 大きないでは、 大きないでは、 大きないでは、 大きのでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、		Σ	軽 単年度目標 設定なし	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	A (R4年 度)	- 継続 2,464,·	2, 595, 900	9 増額	13, 200	順調	九州市立大学の健全な業務運営と教育研究の高度化・個性化、地域への貢献などを支援する。 また、老朽化施設の改修等施設整備を支援する。	順調	引き続き公立大学法人北九州市立大学の健全な業務運営と教育研究の高度化、地域への貢献などの支援に努めていく。
					й , ,	董 戊 — —											

				(Plar	n] =	一画	/ [D	o】 実施							—		【Check】 評価	/	【Action】改善
施策番号	No. SDGs	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組 開課	要 業 事業・取組概要		事業現状値	業評価		(目標・実績)		山田	成果の 方向性		R3年度 予算額	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千 円)	R1年度 事業	R3年度に向けて 強化・見直した内容	R1年度 局施策	強化・見直した内容
- 地名日	番号	主な事業・取組 課	ž	指標名等	(基準値)		R1年度	R2年度	R3年度	中期目標)) IFI II	予算額 (千 四)	予算額 (千 円)	O) 20 11%	(千 四)	評価	(課題に対する改善方法等)	評価	(課題に対する改善方法等)
				公立士学注 1 北		目標	A (計画どお り)	A (計画どお り)	A (計画どお り)										
				公立大学法人北 九州市立大学評 価委員会におけ る各事業年度に 係る業務に対す る評価	A (R1年 度)	実績	A (計画どお り)			A (毎年 度)									
	2 4 9	公立大学法人 北九州市立大 学運営事業	北九州市立大学 地域戦略研究所で の地域研究プロ ジェクト、受託調			達成率	_				−継続	2, 464, 100	2, 595, 900	増額	13, 200	順調	第三期中期計画の実施に向け、引き続き公立大学法人北九州市立大学の健全な業務運営と教育研究の高度化・個性化、地域への貢献などを支援		
		学運営事業	研究の高度化を推 進する。	公立大学法人北		目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし								する。 また、老朽化施設の改修等施設整備を支援する。		
				公立大学法人北 九州市立大学計 価委員員標期け る中期ま業務に対 する評価	A (H28年 度)	実績	_			A (R4年 度)									引き続き公立大学法人北九 州市立大学の健全な業務運営 と教育研究の高度化、地域へ の貢献などの支援に努めてい
I-2- (1)-④ シンンカー (1)-シンクー (1)-シンクー (1)-シンクー (1)-シンクー (1)-シンクー (1)-シンクー (1)-シンクー (1)-シンクー (1)-シンクー (1)-シンクー (1)-シンクー (1)-シンクー						達成率	_											順調	く。 アジア成長研究所の研究活動については、引き続き、外 部資金を獲得するために不断 の努力を行いながら、高い学
した調 査・研 究機能 の強化						目標	5 本	5 本	5 本										術水準の維持に努めるとともに、地元に貢献する調査研究活動を推進する。また、市民・企業向けの講座に関して、リモート会議の導入といった「新しい生活様式」に
			本市がアジアの	著名な学術雑誌への論文掲載数	_	実績	4 本			5本 (毎年 度)							高度な学術水準の維持に努		対応した運営・情報発信に取り組むよう努めていく。
	3 9	(公財) アジ 国際 ア成長研究所 政策	中核的な産業都市 として持続的な成 長を実現するた め、国際水準の知 も 的基盤の強化と地			達成率	80.0 %				−継続	140, 000	140, 000	維持	4, 650	順調	めると共に、培った調査研究 能力で、行政・企業をサポートする「地元貢献」に重点的 に取り組む。また、リモート 会議・YouTubeの活用といっ		
	(1)	補助金課	域への知的貢献を 目的とする活動を 行う(公財)アジ ア成長研究所に補 助金を交付する。			目標	6 件	6 件	6 件								た、コロナ時代に対応した市 民サービスに取り組む。さら に、科研費など外部資金の獲 得に注力し、財政基盤の安定 化に努める。		
				科学研究費を含む外部資金獲得 数	_	実績	7 件			6件 (毎年 度)									
						達成率	116.7 %												

					(Plar) 計画	i / [[Do】 実施									【Check】 評価	/	【Action】改善
施策番号N	SDG:	s 基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主事所名	事業・取組概要			価の成果指標	標(目標・実績)		d #0	成果の 方向性	R2年度 予算額	R3年度 予算額		人件費 (目安) 金額 (千 円)	R1年度 事業	R3年度に向けて 強化・見直した内容	R1年度 局施策	R3年度に向けて 強化・見直した内容
・他束名	番号	主な事業・取組	課名	1.26 21/47/202	指標名等	現状値(基準値)	R1年度	R2年度	R3年度	中期目標	力问性	予算額 (千 円)	予算額 (千 四)	の瑁減	(千 四)	評価	(課題に対する改善方法等)	評価	(課題に対する改善方法等)
					公立大学法人 北州市 価委員業 を名業 係る である である である である である である である であ	A (R1年 度)	A A (計画にお	A (計画どお り)	A (計画どお り)	A (毎年 度)									
Ⅰ-2- (2)-3アとけな材料	4 9	公立大学法人 北九州市立大 学運営事業	企画	公立大学法人の 設置者として、地 方独立行政法人法 第42条に基づき、	る評価	這 成 率	: —				- 継続	2, 464, 100	2, 595, 900	増額	13. 200	順調	第三期中期計画の実施に向け、引き続き公立大学法人北 九州市立大学の健全な業務運営と教育研究の高度化・個性	順調	引き続き公立大学法人北力 州市立大学の健全な業務運営 と教育研究の高度化、地域へ
の架け 橋とな る人材 の育成	. (9	学運営事業	課	業務運営に必要な 経費を交付し、法 人の業務運営の健 全性を確保する。		 標		単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし		442496				,	not are	化、地域への貢献などを支援 する。 また、老朽化施設の改修等 施設整備を支援する。	nocurs	の貢献などの支援に努めていく。
					公立大学法人北 九州市立大学 価委員会における中期目標期間に係る評価 する評価	A (H28年 度)				A (R4年 度)									
						這 成 率	: —												
				外国人市民が安 心して暮らすこと		長	53.0 9	6 53.0 %	54.0 %										
	5 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0) 多文化共生の)推進	国際 政策 課	かした かんじゅう かんりゅう かんりゅう かんりゅう かんりゅう かんりゅう かんりゅう かんりゅう かんりゅう かんしゅう かんしゅん かんしゃ かんしゃ かんしゅん かんしゅん かんしゅん かんしゅん かんしゅん かんしゅん かんしゅん かんしゅん かんしゅん かんしゃ かんしゅん かんしゅん かんしゅん かんしゅん かんしゅん かんしゅん かんしゅん かんしゅん かんしゅん かんしん かんし	市民の「多文化 共生」という言 葉の認知度	51.8% (H29年 度)	58.1 9	6		60% (R6年 度)	継続	43, 565	42, 065	維持	3, 075	順調	新しい生活様式に従って、 イベントや交流を行い、多文 化共生意識啓発について引き 続き推進していく。		
Ⅱ-3-(3)-(1)・(3)-(1)・(3)-(1)・(3)-(1)・(3)-(1)・(3)-(3)-(3)-(3)-(3)-(3)-(3)-(3)-(3)-(3)-				支援に対するニーズの把握を行う。		達 成 率		6										- 順調	外国人が日本で生活するにあたっての諸問題について批握し、各々にあった支援を行う。また、ディスカッカス
現に同 けた体 制の構 築		多文化共生ワ		外国人た活提記では 外国人生活を提示では 大きのでは 大きのでは 大きのでは 大きのでは 大きのでは 大きのでは 大きのでは 大きのでは 大きのでは 大きのでする 大きのでを 大きのでを 大きのでを 大きのでを 大きのでを 大きのでを 大きのでを 大きのでを 大きのでを 大きので 大きので 大きの	外国人市民の生活環境の向上	標		単年度目標 6 設定なし	単年度目標 設定なし	0004101									等を通して意見を聴取する場を設け、外国人にとって効果的な取り組みに努める。
	6 10 17	ンストップイ	国際政策課	相談に多言語で一元的に対応するない。 「北九州市多文化 共生ワンストーションとフォンター」の運	(多文化共生の 現状調査で暮ら しやすいと回 答)	79.7% (H26年 度)		6		80%以 上 (R6年 度)		24, 715	24, 715	維持	2, 325	順調	多様化・複雑化する外国人 相談についての把握に努め、 行政窓口や専門機関との連携 を強化していく。		
				営を行う。		達 成 率	106.3 9	6											

	坐 问			[Plai	n】 計	-画	/ (D	o】 実施							—		【Check】 評価	i /	【Action】改善
施策番号	No. SDGs 基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要事所名	事業•取組概要			評価	の成果指標	(目標・実績)		<u></u>	成果の 方向性		R3年度 予算額	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千	R1年度 事業	R3年度に向けて 強化・見直した内容	R1年月 局施領	度 R3年度に向けて 策 強化・見直した内容
・施策名	番号主な事業・取組	所管 課名	子术 7/101/8/文	指標名等	現状値 (基準値)		R1年度	R2年度	R3年度	中期 目標	万问性	予算額 (千 四)	予算額 (千 円)	の増減	(千 四)	評価	(課題に対する改善方法等)	評価	(課題に対する改善方法等)
	7 ① 多文化共生の 1 ① 推進		また、多言語等	外国人市民の生 活環境の向上 (多文化共生の 現状調査でと回 と と で と い 答	79. 7% (H26年 度)	目標実績	80. 0 % 85. 0 %	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	80%以 上 (R6年 度)	継続	43, 565	42, 065	維持	3, 075	順調	引き続き、外国人市民だけでなく、通訳者に向けたスキンプ講座を実施し、外国人がより安心して暮らせるようなまちづくりを推進する。]	
Ⅱ-3- (3)-② 外市民活の 生境の			でわかりやすい生活情報の提供をすることにより、本民の安全・安心な生活環境の整備を推進する。			達成率	106.3 %											順調	上で必要な情報の提供を行
実			外国人市民が安 心して生活できる			目標	80.0 %	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし										う。
	8 多文化共生ワインフォメーションセンター関連事業		ための情報に対応して 大きなの情報に対応に対応を がは、対応のでは、 大きないでは、 大きないでは、 大きないでは、 大きないでは、 大きないでは、 大きないでは、 大きないできる。 大きないできるないできる。 大きないできるないできるないできるないできるないできるないできるないできるないでき	外国人市民の生活環境の向上 (多文化共生の 現状調査で暮ら しやすいと回 答)	79.7% (H26年 度)	実績	85.0 %			80%以 上 (R6年 度)	継続	24, 715	24, 715	維持	2, 325	順調	多様化・複雑化する外国ノ 相談についての把握に努め、 行政窓口や専門機関との連携 を強化していく。		
			ンセンター」を設 置し運営を行う。			達成率	106.3 %												
			日本人市民に対 して、多文化共生 に関する意識啓発 や国際交流の機会			目標	53.0 %	53.0 %	54.0 %										
Ⅱ-3- (3)-③ 市民の 国際理 解の推 進	9 ① 多文化共生の 推進	国際政策課	や場の提供を行くをでいる。そのでは、大きないのでは、大きないのでは、大きないでは、まないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、まないでは、まないでは、まないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	市民の「多文化 共生」という言 葉の認知度	51.8% (H29年 度)	実績	58.1 %			60% (R6年 度)	継続	43, 565	42, 065	維持	3, 075	順調	外国人市民と日本人市民が関わる場を設けることで、E本人市民に対して多文化共生の意識啓発に効果的な事業を実施していく。	順調	多文化共生の意識啓発事業 を実施することで、外国人の 受入体制を強化していき、市 民向け講座等を行うことで異 文化理解の促進に努める。
			発揮できる「多文 化共生先進都市」 としてのまちづく りを推進する。			達成率	109.6 %												

企画調	正内				(Plar	n] ==	画 /	[Do	」 実施									【Check】 評価	/	【Action】改善
施策番号	SDGs	基本計画の施策	E要 ■業 →	事業・取組概要		1	美評価の成界	果指標	(目標・実績)			成果の 方向性	R2年度	R3年度	事業費	人件費 (目安) 金額 (千	R1年度	R3年度に向けて	R1年度 局施策	R3年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	NO. コール 番号	基本計画の施策 き	E要 事業 所管 事	事果・収組燃安	指標名等	現状値 (基準値)	R1年	度	R2年度	R3年度	中期 目標	方向性	予算額 (千 四)	予算額 (千 円)	事業費の増減	金額 (千 円)	事業評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	戸旭東評価	は課題に対する改善方法等)
			ン ひ 総 か		北九州市への50 歳以上の転入者 の増加数 ※指標廃止	0人 (H27年 度)	目標 100 実績 206 達	人 人	100 人		448人 (H28~ R2年度)							本市の住みよさや移住支 援、子育て情報、生涯活躍の まちを引き続き積極的に発信 し、本市の移住促進に努め る。また、R3年度は新型コロ ナウイルス感染症の拡大を背 景に若い世代の移住ニーズが		
	3 8 10 11	世 定住・移住促 創 進事業 推	മ	1つレーア位置へ)) %				継続	50, 590	50, 600	維持	28, 450		拡大していること受け、若い 世代をターゲットに移住促進 に力を入れる。		
	1	室室	っし ろし	- う「定住・協住・ る「定住・移住 促進すのとでいる。 PRや「北州市 生涯活躍のま 」の推進等に向			目標			100 人								【指標廃止・追加の理由】 国の「生涯活躍のまち」が シニア「けから全世代へ拡充		
			けっの。	て取り組むも 。	20歳代〜30歳代 の社会動態の増 加数 ※指標追加	0人 (R1年)	達				450人 (R3~R5 年)							されたこと及び事業開始から5年が経過し、シニア対象の取組が軌道に乗ってきたことを踏まえ、依然、本市の課題である若者の流出対策の指標に変更するもの。		
Ⅲ-1- (1)-② 定住や地 域活た 化のた					複業・兼業の マッチング件数	0件 (R2年 度)	成率目標実績			10 件	累計60 件 (R5年 度)	_							大変調	本市の定住・移住促進に向けて、本市の住みやすさと魅力などの情報発信に取り組むとともに、継続的な移住支援体制を構築する。 「KitaQフェス」実施を通して生まれた新たなネット
めの環 境づく り			通り	KitaQフェス等を じて得た首都圏			達成率													ワークを活用し、東京から北 九州市への交流人口の拡大、 U・Iターン就職や移住などを 推進していく。
	(8)	<新>複業・ 兼業による関 係人口づく」	サ7 本i 職i	関係人口(KitaQ ポーター等)を 市への移住・就 に精内の仕事と 、ホワーク等によ	KitaQサポー	2, 032人 (R1年	目標			200 人	登録者			20, 200		20. 700		「KitaQフェス」を通じて 得た首都圏の関係人口 (KitaQサポーター等)を、		
		保入 係人 会 く が は る ら づ れ と 首 都 材 マ く が く く く く く く く く く く く く く く く く く	る。 暮 験	機果・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ター新規登録者 数	度)	績達成率				200人 (毎年 度)		_	20, 000		20, 700		本市への移住・就職に結びつけていく。		
			クする		東京事務所にお ける新規移住相 談者数	149人 (R1年 度)	目標実績			200 人	新規移 住 数 200 人 年	_								
							達成率				度)									

企 四 調 発				(Plar	า】 計画	i / [Do	o】 実施							—		【Check】 評価	/	【Action】改善
施策番号	SDGs 基本計画の施策 ゴール を構成する 番号 主な事業・取組	主要事所管理	事業・取組概要			価の成果指標	(目標・実績)			成果の 方向性	R2年度	R3年度	事業費の増減	人件費 (目安) 金額 (千	R1年度 事業	R3年度に向けて 強化・見直した内容	R1年度 局施策	R3年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名 NO.	番号 主な事業・取組	所管 課名	サ 未・ 以 祖 似 安	指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度	中期 目標	方向性	予算額 (千 円)	予算額 (千 四)	の増減	金額 (千 円)	事来 評価	(課題に対する改善方法等)	戸他系評価	(課題に対する改善方法等)
			国や関係自治	登録資産の保全	現状のの継続を表している。	保全計画の 策定	ユネスコへ の報告書作 成	ユネスコへ の報告書作 成	ユネス コマ 報作成年 (度)							事業区分を重点から裁量へ		
12 Ⅲ-2- (1)-① 化産の財存承 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	世界遺産維持活用保全事業	世界産	体 連携の保全につと で、 で、 で	まつり起業祭等、地元の祭り等に出展	2件 (R1年 度) 達成率		2 件	2 件	2件 (毎年 度)	- 継続□	26, 000	29, 391	増額	5, 800	順調	と見直して、予算内での安定 的な広報・PR活動、保全が行 えるようにする。	やや遅れ	世界遺産登録された構成資産の保全を行っていくと連携して関係機関と連携して理解では、関係では、関係では、の取りはのでは、関係では、のの取りをできる。 進・情報をでいる。 推進し、を図っていく。
13	世界遺産集客 ① にぎわい創造 事業	H/N	旧本事務所見学 バスツアーを実施 するとともに、バ スツアーにおける ガイドの充実を図 る。	バスツアーの参加者数	64人 達成率		180 人	160 人	180人 (R4年 度)	継続	10, 000	3, 000	減額	5, 800	_	モニターバスツアーやPRイベントなど、R2年度に予定していた内容が中止や変れを変 でいた内容がかかまるである。 様なくされたため、そ内容調 まえてスケジュールとしてい 整をした事業内容としてい る。		
IV-3- (1)-②企 ズっ材・の 14	地元就職促進 に向けた市内 大学等助成事 業	企画 課	大学生の地元就り対応では、 大学生の地にでは、 大学のでは、 大学のでは、 では、 でり、 はいで はいで はいで はいで はいで はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい	市内10大学の地 元就職者数	868人年 (R1 度) 達成率		前年度比増	前年度比增	前年度 比增 (R4年 度)		50, 000	50, 385	維持	8, 300	_	まち・ひと・しごと創生総 合戦略の基本目標の一つ諸 る、市内大学生地元就職促 の達成に向け、地元就職 に有効な事業を実施する 大学等に対して、 いよる支援を行う。	順調	引き続き、市内大学と連携 し、まち・ひと・しごと創生 総合戦略の基本目標の一つで ある市内大学生地元就職者数 の達成を目指す。

				(Plar	า】 計画	/ [Do】 実施						+		【Check】 評価	/	【Action】改善
施策番号 No	SDGs 基本計画の施策 ュール を構成する 番号 主な事業・取組	主要事情	事業・取組概要			価の成果指標	票(目標・実績))		成果の 方向性 ^{予算額}	R3年度		人件費 (目安) 金額 (千	R1年度 事業	R3年度に向けて 強化・見直した内容	R1年度 局施策	R3年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名 100.	番号主な事業・取組	所管 課名	学术 - 双机侧女	指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度	中期 目標	方向性 方向性 (千 円)	予算額 (千 円)	の増減	並 (千 円)	評価	(課題に対する改善方法等)	評価	(課題に対する改善方法等)
				++ . 0 = ± 1	目標	90.0	% 90.0 %	90.0 %									
			市民自らがまち の魅力を発信する	本市への愛着があると答えた(肯定的な回答をした)市民の割合	79.3% (H25年 度) 実績	82.0	6		90.0% (R6年 度)						これまでの取組により「北九州市 時と風の博物館」の会員数は伸びている。された		
IV-4- (1)-① 北九州 15	の ルナ 州 士 註 士	地方	ウェブサイト「北 九州市 時と風の 博物館」を通じ て、本市の魅力を 発掘・再発見し、		達 成 率	91.1	6			- 継続 11,286	4, 690	減額	8, 700	順調	本市の魅力を広く発信するために、投稿を簡易化するなどして広く市民が参加しやすい形の取り組みを進め、地域る源を増やすことで、さらな情報発信を展開していく。	順調	これまでの取組により、目標値に向けて微増ではあるが 上昇傾向である。今後も幅広い世代に本市の魅力を感じて もらえるよう、新たなコンテ ンツの掘り起こしなどを進め
の魅力づくり	① 无旧学术		さらに情報の共有に特報の共有に等を対している。 は、地域では、地域では、対している。 をきまれる。 は、対している。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、		目標	90.0	6 90.0 %	90.0 %							また、「北九州市応援団の 集い」については、首都圏の 他イベントと融合し、特命大 使や本市ゆかりの方々などこ れまでに培ったネットワーク		るとともに、効果的な情報発信により外部からの評価を高めることで、市民のシビックプライドの醸成に繋げる。
			する。	本市が好きだと 答えた(肯定的 な回答をした) 市民の割合	78.5% (H25年 度) 実績	83.9	6		90.0% (R6年 度)						を活用して、首都圏での情報 発信を強化する。		
					達成率	93. 2	6										
				本市への愛着が	目 標	90.0	% 90.0 %	90.0 %									
			市民自らがまち の魅力を発信する。	あると答えた(肯定的な回答をした)市民の割合	79.3% (H25年 度) 実績	82.0	6		90.0% (R6年 度)						これまでの取組により「北 九州市 時と風の博物館」の 会員数は伸びている。さらに 本市の魅力を広く発信するた		これまでの取組により、目
IV-4- (2)-① 戦略的 なシ ティプ	@ II. I III	地方 創生 推進	ウェブサイト 「加州市」 時本の は物館は で、本語の ・一の ・一の ・一の ・一の ・一の ・一の ・一の ・一		達成率	91.1	6			- 継続 11,286	4, 690	減額	8, 700	順調	めに、投稿を簡易化するなど して広く市民が参加しやすい 形の取り組みを進め、地域資 源を増やすことで、さらなる 情報発信を展開していく。	順調	標値に向けて微増ではあるが 上昇傾向である。今後も幅広 い世代に本市の魅力を感じて もらえるよう、新たなコンテ ンツの掘り起こしなどを進め
ロモー ション の展開		至	や補足等を行うことで、地域の発育を とで、地域資果的な情報発信を展開する。		標	90.0	% 90.0 %	90.0 %							また、「北九州市応援団の 集い」については、首都圏の 他イベントと融合し、特命大 使や本市ゆかりの方々などこ れまでに培ったネットワーク		るとともに、効果的な情報発信により外部からの評価を高めることで、市民のシビックプライドの醸成に繋げる。
			, 0	本市が好きだと答えた(肯定的な回答をした)市民の割合		83.9	6		90.0% (R6年 度)						を活用して、首都圏での情報 発信を強化する。		
					達 成 率	93. 2	6										

成果指標(目標・実績) R1年度 R2年度 R3年) 0.0 % 90.0 % 90.0	度 中期 目標	R2年度 R3	3年度 事業費 (千 の増減 ・ エ	件費 目安) 全額 (千 円)	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 R3年度に向けて 局施策 強化・見直した内容 評価 (課題に対する改善方法等) 順調 「北九州市が好き」「北九
	%					順調 「北九州市が好き」「北九
3.9 %						州市が誇り」「北九州市と関 わりたい」と思い、市民や市 出身者が自ら北九州市の魅力 を発信していく輪を広げ、北
	90.0% (R6年 度)					九州市への愛着・自信・誇り を高めていくために、 (1) ウェブサイト「北九州 市 時と風の博物館」を通じ て、幅広い世代に対して、シ
3. 2 %						ビックプライドの向上や地域 情報の効果的な浸透を図る。 (2) 北九州市応援団会員へ の定期的なメール配信や、特 命大使・ひまわり大使への情
5.0 % 75.0 % 75.0	%					報発信の強化により、本市ゆかりの方々に効果的に本市への愛着や誇りを共有してもらえる取組を実施する。 「ふるさと北九州市応援寄
4.1 %	80.0% (R6年 度)				これまでの取組により「北九州市 時と風の博物館」の会員数は伸びている。さらに本市の魅力を広く発信するだ	附金」についてPRし、寄附件 数及び寄附金額の増加を図 る。 また、寄附金の使い道を寄
2.1 %		継続 11,286 4,	, 690 減額 8,	700 順調	して広く市民が参加しやすい 形の取り組みを進め、地域資 源を増やすことで、さらなる 情報発信を展開していく。	附者が選択できる仕組みと一 定額以上の寄附者に対する地 元特産品等の贈呈を通じ、本 市の魅力を全国に発信する。
5.0 %					集い」については、首都圏の他イベントと融合し、特命大使や本市ゆかりの方々などこれまでに培ったネットワーク	
2.7 %	5.0% (R1年 度)				を活用して、首都圏での情報 発信を強化する。	
_						
95.0 % 95.0						
	(R6年 度)					
1	5. 0 % 75. 0 % 75. 0 4. 1 % 2. 1 % 2. 7 %	5.0 % 75.0 % 75.0 % 80.0% (R6年度) 2.1 % 5.0% (R1年度) — 95.0 % 95.0 % 95.0% (R6年	5.0 % 75.0 % 75.0 % 80.0% (R6年度) 2.1 %	5.0 % 75.0 % 75.0 % 80.0% (R6年度) 2.1 % 維続 11,286 4,690 減額 8, 0 % 95.0 % 95.0 % 95.0 %	5.0 % 75.0 % 75.0 % 80.0% (R6年度) 2.1 % 4.1 % 4.1 % 2.1 % 5.0% (R1年度) 95.0 % 95.0 % 95.0% (R6年	5.0 % 75.0 % 75.0 % 75.0 % 80.0% (R6年度) 4.1 % 80.0% (R6年度) 2.1 % 2.1

						(Plar	1】 計	画/		o】 実施							—		【Check】 評価	/	【Action】改善
号 No	SDGs コ゛ール	基本計画の施 を構成する 主な事業・取	策 事 所 課	要業	事業•取組概要		1			(目標・実績)		_L_ #n	成果の 方向性	R2年度	R3年度	事業費の増減	人件費 (目安) 金額 (千 円)	R1年度 事業	R3年度に向けて 強化・見直した内容	R1年度 局施策	R3年度に向けて 強化・見直した内容
名 …	番号	主な事業・取	組 肝	名	于水 水恒加久	指標名等	現状値 (基準値)	R	1年度	R2年度	R3年度	中期目標	万问性	予算額 (千 円)	予算額 (千 四)	の増減	(千 円)	評価	(課題に対する改善方法等)	評価	(課題に対する改善方法
								目 1標	位 0 以 内												
				5	オ構築のために、 ナポーターの組織	北九州市の認知 度(地域ブラン ド調査によるも の)	19位 (H25年 度)	実 2	0 位			10位以 内 (R4年 度)							北九州市応援ショップの認 定数増加、情報発信拠点であ るサポーター組織への情報提		
10	8	首都圏応援ネットワー	東京	化 ()	とを進める。さかりる。さかりる。 さかり るの かり は がった は は で かり トリース に は と 連 携 し			達 成 率	_				ሪ ስሁ ሪ ±	4 050	4 500	运	4 000	やや	供メニューの強化を図り、更なるネットワークの拡大を図る。 【中期目標の変更内容】		
18	1	拡大事業	グ事が	がある。	に情報発信拠点の 広大を図る。 これにより、首 が圏での北九州市 D認知度向上や北			目標		500 人	200 人		一 	4, 950	4, 500		4, 900	遅れ	KitaQサポーターは目標を はるかに超える2,000名を獲 得し、順調に推移。 今後は現会員2,000名に対 し、移住等を現実的なものと		
				オ	九州ファン層の拡 大、人・店舗・企 美のつながりを作 る。	数	1,131人 (H30年 度)	実績				登録者 数計200 人 (毎年							するための情報発信に注力。 そのため、新規獲得数は200 人(毎年度)に変更。		
						※中期目標改訂		達成率				度)									
								<u></u>	前年度 11,037)比増	前年度比増	前年度比増										
					「ふるさと北九	寄附件数	46件 (H24年 度)	実 績 26,	438 件			_							これまでの取組が功を奏 し、北九州市への寄附額(ふ		
10	3457	ふるさと寄	地フ 附 創 <i>生</i>	ドを	州市応援寄附金」 こついてPRし、寄 付件数及び寄附金 頭の増加を図る。 また、寄附金の まい道を寄附者が			達 成 239 率	9.5 %				***	225 000	700,000	100 p.s.	10.050	大変	るさと納税額)が大幅に増えている状況である。 令和2年度については、新型コロナウイルス感染症を考慮して対面型のイベントを中		
	(N) (1) (1) (1)	金促進事業	推通室	進 選と 解れ 現	選択できる仕組み ニー定額以上の寄 付者に対する地元 持産品等の贈呈を 通じ、本市の魅力			묘 (1	有年度 9,777万)比増	前年度比增	前年度比增		☆拡大	335, 000	720, 000	留 額	13, 950	順調	止し、主にインターネットを活用したPR方法に切り替えるなど、適宜適切な対応を行っている。 今後も引き続き魅力ある返礼品を選定し、主に首都圏を		
					を全国に発信す る。	寄附金額	約450万 円 (H24年 度)	実 績 49,	816 万円			_							対象にPRを強化することで、 寄附受入額の増加を目指す。		
								達 成 25 ⁻ 率	1.9 %												

上門砂堆	79																			
				(Plar	n] iti	画/	/ [D	o】 実施									[Check]	評価	/	【Action】改善
施策番号 ու	SDGs ゴール 番号 主な事業・取組	主要事業	声类 取织柳西		事業	評価の	成果指標	(目標・実績)			成果の	R2年度		事業費	人件費 (目安)	R1年度	R3年度に向けて	क्रंट	R1年度	R3年度に向けて
·施策名 NO.	を構成する 主な事業・取組	主要事所課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)	I	R1年度	R2年度	R3年度	中期目標	方向性	予算額 (千 四)	予算額 (千 四)	事業費の増減	金額 (千 円)	事業評価	強化・見直した内 (課題に対する改善方	谷 法等)	局施策 評価	強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
					;	目標	位 10 以 内	10位以内	10位以内											
				北九州市の認知 度 (地域ブランド 調査によるも の)	19位 (H25年 度)	実績	20 位			10位以 内 (毎年 度)							雑誌・新聞やテレビ オ等のマスコミによる [†]	・ラジ 情報発		
IV-4- (2)-③ 都市イ メージ	8 情報発信・取 ① 材協力事業	地方	本市の認知度と 都市イメージの向 上を図るため、新 聞、雑誌、テレ		:	達 成 率	_				♦/₩ ♦±	20, 037 1	10 014	继生	20, 950	やや	信は積極的に取り組んが、地域ブランド調査(順位が、認知度、情報を ともに昨年より1ランクたため、「やや遅れ」。	でいる による 接触度 溶ち	やや	引き続き、本市の都市ブランド推進に向け、魅力づくりや戦略を開発された。
がけて 20 メージ の向上	付 材協力事業	室	ビ、インターネット等のマスメディアを通じた本市の PRに取り組む。		;	目標	位 10 以 内	10位以内	10位以内		祁 本	20, 037	19, 014	补 生1寸	20, 930	遅れ 	断。 R2年度は、ウィズコロアフターコロナを見据。 報発信を行い、地域ブラ調査のランキングが上野知度18位、情報接触度1	えた情 ランド 昇(認 1位)	遅れ	や戦略的な情報発信に努めつつ、若年層対象としたSNSの活用や、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた情報発信にも注力していきたい。
				北九州市の情報 接触度 (地域ブランド 調査によるも の)	15位 (H25年 度)	実績	19 位			10位以 内 (毎年 度)							したため、今後も継続しく。	ってい		
						達成率	_													

				(Plar	n】 計	·画 / 【D	o】 実施							—		【Check】 評価	/	【Action】改善
施策番号	No. SDGs	主事業所	事業・取組概要		1				山畑		R2年度 予算額 (千	R3年度 予算額 (千	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千	R1年度 事業	R3年度に向けて 強化・見直した内容	R1年度 局施策	強化・見直した内容
			「公共施設マネ	指標名等	現状値(基準値)	R1年度 目 標	R2年度 —	R3年度 —	中期 目標 約20%		円)			円)	評価	(課題に対する改善方法等) 2017年3月に策定した「公 共施設マネジメント5ヶ年行 動計画」に基づき、実行計画 の進捗状況を的確に把握し、	評価	(課題に対する改善方法等)
	21 9 ジメント推進	· ジン政課 - メト策	ジ画大学 公将を設ける はいまれる という はいまた はいまた はいまた はいまた はいまた はいまた はいまた はいまた	公共施設保有量 の縮減	施設 (H26年 度)	達成 平			削減 (R37年 度)		9, 108	8, 256	減額	54, 000	順調	評価を行いながら進めていくなどの実効性の確保に努める。 あわせて、5ヶ年行動計画 (2期目)の策定に向けた協議・取りまとめに着手する。		
					モデル	国 複合公共施 設の整備の 推進	複合公共施 設の整備の 推進	複合公共施 設の整備の 推進										
V-3- (2)-2 (4) + **				門司港地域にお ける複合公共施 設の整備	プロ ジェク	実 複合公共施 設の整備の 推進			複共のの(Rを定分設備進度予)	=								計画の推進にあたっては、 今後も「公共施設マネジメント5ヶ年行動計画」により進 捗状況の的確な把握及び評価
(2) 一 (2) 一 (2) 一 (2) 一 (2) 一 (3) 一 (4) — (4) 一 (4) — (4) — (4) — (4) — (4) — (4) — (4) — (4) — (4) — (4) — (4) — (4) —	⑧問司洪地城拔		「北九州市公共 施設マネジメント 実行計画」に基づ			達成 ― ― ― ― ― ― ― ― ― ― ― ― ― ― ― ― ― ― ―										公共施設マネジメントの基 本方針や施設分野別実行計画	順調	を行い、公共施設マネジメントの取り組みを継続的に進めていくとともに、モデルプリジェクトに関しては、再配計画の具体化に向けた検討調整等を進めていく。
		ジン政課 ま	び大里地域におい		モデル	目標園がの公一の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の			居住		149, 300	86, 665	減額	46, 500	順調	本方針や施設分野別実行計画 等を踏まえ、地域住民や施設 利用者等と対話しながら、引 き続きモデルプロジェクトの 着実な推進を図る。		
				大里地域における居住ゾーンの 民間売却及び公 園広場ゾーンの 整備	プロ	居住ゾーン の民間売却 (公公園広場) び公園広場 ・ がーンの整 備の推進			の開公場ン (R5ア定) (R5ア定) (R5ア定)									
						達 成 — 率												

				(Plar	1】 計画	I	/ [D	o】 実施							—		【Check】 評価	/	【Action】改善
施策番号 No	SDGs 基本計画の施策 デール を構成する 番号 主な事業・取組	主要事業所課名	事業・取組概要					(目標・実績)		ph #0	_ 成果の 方向性	R2年度 予算額	R3年度	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千	R1年度 事業	R3年度に向けて 強化・見直した内容	R1年度 局施策	R3年度に向けて 強化・見直した内容
・施策名	番号 主な事業・取組	所管 課名	于 术 机恒烷文	指標名等	現状値 (基準値)		R1年度	R2年度	R3年度	中期目標	万问性	予算額 (千 円)	予算額 (千 円)	の増減	(千 円)	評価	(課題に対する改善方法等)	評価	(課題に対する改善方法等)
					村	目 伊票	R全計画 策定	ユネスコへ の報告書作 成	ユネスコへ の報告書作 成	ュネス									
				登録資産の保全		実保	全計画の 策定			コへの 報告書 作成 (毎年									
23	☆ 世界遺産維持	世界	国や関係自治 体、所有者等との 連携のもと、遺産 価値の保全につと		й Б	主	_			度)	% № % ±	26 000	29, 391	増額	E 900	順調	事業区分を重点から裁量へ と見直して、予算内での安定		
V-3-	活用保全事業	課	連携のもと、遺産 価値の保全につと める。]		2 件	2 件		一种医节 见	26, 000	29, 391	垣 400	5, 600	川田河	と見直して、予算内での安定的な広報・PR活動、保全が行えるようにする。		世界遺産登録された構成資
(2)-③ 近代産 で 近 が が が が が が が が が が が が が り の の の の が お り の に ろ に ろ に ろ に ろ に ろ の の の の の の の の の				まつり起業祭 等、地元の祭り 等に出展	2件 (R1年 度)	美責				2件 (毎年 度)								やや 遅れ	産の保全を行っていくと共 に、関係機関と連携してイン タープリテーション(理解増 進・情報発信)の取り組みを 推進し、観光資源としての魅
活用					j F	主													力向上を図っていく。
			旧本事務所見学] 票		180 人	160 人								モニターバスツアーやPRイ ベントなど、R2年度に予定し		
24	世界遺産集客 ① にぎわい創造事業	世界 遺産 課	バスツアーを実施 するとともに、バ スツアーにおける ガイドの充実を図 る。	バスツアーの参 加者数	1 04 1	麦				180人 (R4年 度)	継続	10, 000	3, 000	減額	5, 800	_	ていた内容が中止や変更を余 儀なくされたため、それを踏 まえてスケジュールや内容調 整をした事業内容としてい		
						達											3 .		
				A = 4m + 88 +		票	4 件	3 件	2 件										
		平成16年11月	平成16年11月に	会員都市間ネットワークの活用 による共同プロジェクトの件数	4件 (H26年 度)	責	4 件			4件以上 (毎年 度)	-								
VII-1- (1)-① 「東ア ジア経 済交流 25	東アジア(環 黄海)経済交 ① 流推進機構推 進事業	アジァ☆	ア経済で流推進機 構(以)」の共同事 務局として、会員				00.0 %				→継続	5, 900	5, 290	浦烟	11, 050	順調	各会員都市に所在する企業 の機構参加促進に向けて、各 都市商工会議所・国際商会と の連携を強化し、より活発な 機構活動を目指す。	順調	会員都市からの提言等をもとに、機構の活動についての
「ジ済推構業進 別を で が で が が は は の が は 事 推 り の も は り の も も も も も も も も も も も も も も も も も も	(U) 流推進機構推進事業	流課	116年11月ア進構大学では、116年11年推機大、格の支に理り、11の会開との会開との大学では、11のの会開との大学が、11のの会開との大学が、11のの会開との大学が、11のでは、11ので		E t	票	4 件	4 件	4 件		ጥር። ባንሁ	3, 000	5, 200	"» ux	, 000	까도 대비	の連携を強化し、より活発な機構活動を目指す。	加克 印 明	在り方を検討し、活性化を図 る。
			にあたる。	東アジア経済交 流推進機構にお ける会議数		実	2 件			19件 (R2~R6 年度)	6								
						主	0.0 %												

						(Plar	1】 計) 実施							—		【Check】 評価	/	【Action】改善
施策番号	No 3°-M	as 基	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主 事 所 課 名	事業・取組概要		1	(評価の成果指標	(目標・実績)		-L #n	成果の 方向性	R2年度	R3年度	事業費の増減	人件費 (目安) 金額 (千 円)	R1年度 事業	R3年度に向けて 強化・見直した内容	R1年度 局施策	R3年度に向けて 強化・見直した内容
・他束名	番号	号 主	主な事業・取組	課名	1.010 - 10012	指標名等	現状値 (基準値)	R1年度	R2年度	R3年度	中期 目標	力问性	予算額 (千 円)	予算額 (千 円)	の増減	(千四)	評価	(課題に対する改善方法等)	評価	(課題に対する改善方法等)
	26 ①		国際交流事業	アジ ア交 流課	団の受入れや本市	姉妹・友好都市 を中心とした海 外諸都市との交 流事業参加者延 ベ人数	343人 (H26年 度)	目標 330 人 実績 1,164 人 達成率 352.7 %	330 人	330 人	330人以 上 (毎年 度)	継続	8, 881	10, 499	増額	14, 950	大変 順調	様々な分野において、姉 妹・友好都市との交流を深め ていくとともに、海外諸都市 についても、各分野からの訪 問団の受け入れなどを通して 交流を広げていく。		
		AS	SEAN新都市	アジ	成活力をあっているでは、 をあることでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	アセアン諸国な どアジアの新興 国との交流事業 参加者延べ人数 ※指標追加	_	目標実績達成率		50 人	100人 (毎年 度)							カンボジア・プノンペン都 との交流促進のみならず、ベ トナム・ハイフォン市との多 分野における交流を進める。 R3年度についてはコレナ禍 に鑑み、目標値を50人とす る。		
VII-1- (1)-② 都立 変携 進進	27 ①	T T T T T T T T T T T T T T T T T T T	引連携促進事 美	ア交 流課	ス・ハイフォン市 イン・ハイフォン・ イン・ハボジア・ イン・ イン・ イン・ イン・ イン・ イン・ イン・ イン・ イン・ イン	カンボジア及び アセアン新規交 流都市との交流 事業参加者延べ 人数 ※指標廃止	_	目標 20 人 実績 18 人 達成率 90.0 %	20 人		20人以 上 (毎年 度)	継続	2,000	4, 399	増額	7, 955		【指標廃止・追加の理由】 「アジアゲートウェイ推進事業」の廃止にともないたアセミンの廃止していたアセスををで対応していた本事業に関するととしたため、果なまでの活動指標を廃止し、新たな指標を廃止し、新たな指標をとした。	大変順調	姉妹・友好都市、アセアン 諸国のアジア新興国等との 様々な分野における交流の深 化を図るとともに、連携強化 やネットワーク構築を進め る。
	28 ①	< の ク	〈新>海外と ○ネットワー ヶ強化事業	アジ ア交 流課	知海ネを効情プ実 海名外ッ図果報ロ市及の上、との強よ的発モーるのが、いいので信一るのびにでは、ションのでは、ションのでは、ションのでは、ションのでは、いいないでは、いいないでは、いいないでは、いいないのが 化りないを	各種SNSによる 発信件数 各種SNSの閲覧 件数	_	目標 実績 達成率 目標 実績		288 件	864件 (R5年 度) 45,000 (R5年)	_	_	1, 500		3, 075	_	経済活動や地域活動を持続 を大きないは、からないは、では、 をないないができる。 をがいたがでいる。 をがいたができる。 をがないからないができる。 をがないがいる。 をがないがいる。 をがないがいる。 をがないがいる。 をがないがいる。 をがないがいる。 をがいたがいる。 をいたがいたがいる。 をいたがいる。 をいたがいる。 をいたがいる。 をいたがいる。 をいたがいる。 をいたがいる。 をいたがいる。 をいたがいる。 をいたがいる。 をいたがいる。 をいたがいる。 をいたがいる。 をいたがいる。 をいたがいる。 をいたがいる。 をいたがいる。 をいたがいる。 といたがい。 といたがい。 といたがい。 といたがい。 といたが、 と、 といたが、 といたが、 といたが、 といたが、 といたが、 といが、 といたが、 といたが、 といたが、 といたが、 といたが、 といが、 といが、 といが、 といが、 といが、 といが、 といが、 とい		

					(Plar	า】 計	画	/	[Do]	実施	施							—		【Check】 評価	/	【Action】改善
施策番号 • 施策名	No. SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要事情	事業・取組概要		1	┊評価の	D成果指	は標([目標・実	(積)		_1_ #B	成果の 方向性		R3年度	事業費の増減	人件費 (目安) 金額 (千 円)	R1年度 事業	R3年度に向けて 強化・見直した内容	R1年度 局施策	R3年度に向けて 強化・見直した内容
- 施策名	番号	主な事業・取組	所管 課名	于不 	指標名等	現状値 (基準値)		R1年度		R2年度		R3年度	中期目標	方向性	予算額 (千 円)	予算額 (千 円)	の増減	(千四)	評価	(課題に対する改善方法等)	評価	(課題に対する改善方法等)
VII-1-				姉妹・友好都市 を中心とした海外 諸都市との様々な	姉妹・友好都市		標	330	人	330	人	330 人	220 1 121							様々な分野において、姉		
(2)-② 文化・ スポー ツ交流 の拡大	29 1	国際交流事業	アジ ア交 流課	分野での交流推進 を図るため、訪問 団の受入れや本市 からの訪問団派遣	を中心とした海 外諸都市との交 流事業参加者延 ベ人数	(H26年		, 164	٨				330人以 上 (毎年 度)		8, 881	10, 499	増額	14, 950		妹・友好都市との交流を深めていくとともに、海外諸都市についても、各分野からの訪問団の受け入れなどを通して交流を広げていく。	大変順調	姉妹・友好都市との様々な 分野における交流・連携を一 層強化していく。
				等の交流事業を行 う。			達 成 3 率	352. 7	%											Z/M. E/Z// () ()		
							標	80. 0	%	80	%	80 %	900/									
				駐中国北九州市	海外事務所の本 市地域企業への 貢献度	_	傾	91.5	%			以上 (R2年 度)	(R2年							コロナ禍においては、企業 が海外事務所を訪問すること		
VII-2- (2)-2 海外の 経済事	30 8 17	中国ビジネスサポート拠点	アジ ア交	経済事務所を設置・運営し、地元サ 企業のビジネス支援 ポートや進出する			達 成 1 率	14. 4	%					継続	45, 548	41, 717	減額	3, 075	大変	は難しいため、海外事務所が ら企業のニーズ把握を積極的 に行う。 コロナ終息後においては、	外事務所か 握を積極的 おいては、 大変 後 業数及び地 が、新型コ 症拡大前の	コロナ禍およびコロナ終息後における地元企業に持ちる。
経済事 務所の 活用	W	整備事業	流課	を行うとともに、 本市と中国の都市 とのネットワーク を形成・強化す る。			目標	390	社	250	社	200 社			,	ŕ				海外事務所利用企業数及び地域企業への貢献度が、新型コロナウイルス感染症拡大前の数値を回復できるよう努め		ビジネスサポートに積極的に 取り組む。
				ত :	海外事務所を利 用した企業数	_	実績	492	社				R3年度 の状況 により 設定							5 .		
							達 成 1 率	26. 2	%													
				日本人市民に対して、多文化共生に関する意識を発や場際交流の機会も			目標	53. 0	%	53. 0	%	54. 0 %		継続	43, 565	42, 065				市民講座や日本人と外国人 との交流イベント等の多文化 共生意識啓発事業を実施する ことで、多文化共生に関する 市民意識の向上を図る。		
	31 (1) (1) (1)	多文化共生の 推進	国際 政策 課	もに、すべての市 民が安心して暮ら	市民の「多文化 共生」という言 葉の認知度	51.8% (H29年 度)	実績	58. 1	٨				60% (R6年 度)				維持	3, 075	順調			
VII-2- (3)-② 国際都 市にも さわれ				(した) (した) (した) (した) (した) (した) (した) (した)			達 成 1 率	09. 6	%												順調	外国人市民と日本人市民の 共生事業を実施し、外国人市 民が地域住民として活躍でき るような活動に取り組むとと もに、異文化理解や「やさし
いまちづくり		タナルサルロ		外国人市民が安 心して生活できる ための情報提供や	外国人市民の生		目標	80. 0	% <u>i</u>	単年度目 設定なし	ーー I標 し	単年度目標設定なし			ē 24, 715 2	24, 715						もに、異文化理解や「やさしい日本語」の推進を図る。
	32 (4) (10) (17)	多文化共生ワンストップーンフォメーションセンター関連事業	国際 政策 課	共生ワンストップ	活環境の向上(多文化共生の現状調かと)	79.7% (H26年 度)	実績	85. 0	%				80%以 上 (R6年 度)	継続			維持 2, 325	寺 2, 325	//尺口/9	多様化・複雑化する外国人 相談についての把握に努め、 行政窓口や専門機関との連携 を強化していく。		
			FF17	インフォメーショ ンセンター」の運 営を行う。	答)		達 成 1 率	06. 3	%													

企曲調	全 同			FD: 3	#1·	T	70	7										,	
		<u> </u>	-	(Plan)	計		[Do								人供费		【Check】 評価		【Action】改善
施策番号	No. SDGs	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組 記述事業・取組	^要 業 事業・取組概要	11: TE				(目標・実績)	D0 (山田	成果の 方向性	R2年度 予算額	R3年度 予算額	事業費の増減	人件費 (目安) 金額 (千 円)	R1年度 事業	R3年度に向けて 強化・見直した内容	R1年度 局施策	強化・見直した内容
	番号	主な事業・取組 課業	3	指標名等(基	状値 準値)	R1年	<u></u>	R2年度	R3年度	中期目標	73 1-3 1-2	(千 四)	予算額 (千 四)	072679	(千 四)	評価	(課題に対する改善方法等)	評価	(課題に対する改善方法等)
				した割合(H2	9% 28年 隻)	目標 90 実績 90	%	90 %		90% (R2年 度)			4, 413						
				※指標廃止		達 成 100.0 率	%				継続	_					「新たな広域連携推進事 業」については類似事業を整		
	33 ①	広域行政推進 政第 事業 課	下関市との連携については、県境についた連携中枢を越市同士の連携中枢の可能性を検討していくものである。			関門地化連で協議 組 検記	に資 携会 の 議・	関門地域の 活性化連携の 議の協議・ 検討	関門地域の 活性化に する連携の 議の協議・ 検討	関門地				その他 1	13, 300	順調	理し、「広域行政推進事業」 の中で取り組みを行う事によ り事業費の見直しを行った。 これにより、基本計画にお ける主要施策を「広域行政推 進事業」に変更し、周辺都市 との連携を推進する。		
VII-3-				本市と下関市両 市の企画部門等 で会議を開催 し、両市の経済 成長に繋がる取 り組みに対 協議・検討		関門地 実績 議の協議 検記 検記 様記 おいまい おいまい おいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい	に資 携会 の取 議・			域推議そ伴市部のの関連進会れう企門会開							【指標廃止の理由】 主要事業の見直しに伴い、 適切な指標設定に修正するも の。		北九州都市圏域で連携した
(1)-① 県辺村と域 地 携推						達 成 — 率												事 順調 を ル	北ル州都中圏域で連携した事業について、これまでの食のプロモーション事業の経験を活かしつつ、情報発信ツールの見直し等を含め、企画検討を行っていく。
					_	目 3,658	万人	3,665 万人											
				北九州都市圏域 3,6 内への観光客数 (HZ ※指標廃止 月	640万 人 27年 隻)	実 集計	中			3, 673万 人 (R2年 度)							新たに連携事業の企画検討 を行い、圏域市町の意見を取 り入れ、圏域の魅力をより発		
	34 8	北九州都市圏 政領	本市と近隣自治体(福岡県北東部の16市町)で形成された、連携中枢を都市圏「北九州都			達 成 — 率					√ Ν• √ ±	E 000	4 000	海 克 1	7 400		信できるような事業を行っていく。 【指標廃止の理由】		
	34	北九州都市圏 以現場 表現	● 都中圏「北九州和 市圏域」のブラン ディング、プロ モーション事業を 行う。			目 標 178.6	万人	179.0 万人	令和3年度中 に設定予定	A 100 to	* 体 视	5, 090	4, 000	減額 1	7, 400		第2期北九州都市圏域連携中枢都市圏ビジョン策定に伴い、KPIの設定見直しを行ったため廃止。		
				北九州都市圏域 177 内の宿泊者数 (H2 ※中期目標改訂 原	7.4万 人 27年 隻)	実 集計	中			令和3年 度中に 設定予 に 令和5							【中期目標の変更内容】 次期北九州市観光振興プラン策定に伴うため。		
					-	達 成 — 率				年次)									

					(Plar	7】 計画	/ (D	o】 実施							—		【Check】 評価	/	【Action】改善
施策番号 No · 施策名	SDGs)。ゴー) 番号	ままままます。 基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主事所智	事業・取組概要	指標名等	事業記 現状値 (基準値)	で 相の成果指標 R1年度	(目標・実績) R2年度	R3年度	中期目標	成果の 方向性	R2年度 予算額 (千 円)	R3年度 予算額 (千 円)	事業費の増減	人件費 (目安) 金額 (千 円)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
					「連携中枢都市 圏ビジョ業のう 載の事業をし ち、割合 とた含む) ※指標廃止	69% (H28年 度)	90 % 90 % 2 100.0 %			90% (R2年 度)							「新たな広域連携推進事 業」については類似事業を整 理し、「広域行政推進事業」		今後も近隣都市との連携を一層強化していく。
VII-3- (1)-3- (1)隣都の間連 で間携	55 ①)広域行政推進)事業	政調課	下関市との連携については、県境を越えた連携中枢都市同士の連携の連携ののである。	本市で会議市を受けるでは、一本市で会議市撃には、一大ののでは、一大のでは、一は、一は、一は、一は、一は、一は、一は、一は、一は、一は、一は、一は、一は	E 村	議等での取・ 祖の協議 関門地は域の 関活性を連携会	関門地域の 活性化連携等での議組の協議を 検討	関門地域のの資金では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	関域推議そ伴市部のの門連進会れう企門会開地携協とに両画等議催		_	4, 413	3 その他	13, 300	順調	の中で取り組みを行う事によ。 り事業費の見、を行う事によったを もし、 は本は、 は本は、 は本は、 は本は、 は本は、 は本は、 は本は、 は本	順調	
						ў Б 2	-		40 事	の開催									
36	6 11	○ <新>関門連 携推進事業	政策整課	関事形様に 関事形様な 大に活「をかを関をプの図る 関事で式は は発新定すり、 の進エラ、ら事 は発析に がコ、光るアシ入るを はのが、 がコ、光るアシスるを はのが、 はのが、 がいる。 はのが、 はいし がいる。 はいし がいる。 はいし がいる。 はい。 はいる。 はい	行政間における 関門連携事業数	40事業	nd time		**************************************	40事業 (毎年度)	_	_	3, 000	_	20, 750	_	関門地域魅力向上事業終了 に伴い、新たに関門地域の活 性化に寄与する事業を実施す る		

正岡原				(Plan] 計	画 .	/ [[Do] §	実施							(【Check】 評価	/	【Action】改善
施策番号 ·施策名	No. spgs	主要 事業 所 課名	事業・取組概要	指標名等	現状値 (基準値)		D成果指標 R1年度	票(目標・ R2年		R3年度	中期目標		R2年度 F 予算額 (千 円)	R3年度 予算額 (千 円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千 四)	R1年度 事業 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R1年度 局施策 評価	R3年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						目標	27 背	<u>\$</u> 27	都市		口 isk	H		- 141)		<u> Н</u>)				
				九州地域などに おける交流・連 携都市数(累 計) ※指標廃止	26都市 (H28年 度)	実績	27 者	<u>r</u>	(毎年	27都市 (毎年 度)										
				公旧保廃止		達 成 1 率	00.0 %	6												
			【西九州軸連携】 九州新幹線沿線 自治体(鹿児島 市、熊本市、福岡 市)との「四都市			目標	1 [1	0	1 🗓							令和2年度については、新			
			カイス 自市、 市市連携の 大川本 大川本 大川本 大川本 大川本 大川本 大川本 大川本	連携事業の実施 (西九州軸での 活動)	E施 1回 の (H28年 度)	実 績	1 [1		(毎年	1回 (毎年 度)							型コロナウイルス感染症の拡大を考慮して各連絡会議を書面開催するなど、適時適切に対応している。次年度以降も、状況に応じて書面開催やWEB会議等柔軟な対応を取り		
VII-3- (2)-② 九州各 地域な	37 ① 広域行政推進事業		た広域連携に加え て、鹿児島県南九 州市との都市間交 流の推進により、 九州の一体的な発 展のため、西九州			達 成 1 率	00.0 %	6				- 継続 4,454 4,41	4, 413	維持 3	3, 075	順調	つつ連携の質を高めていく。 【指標廃止・追加の理由】	順調	今後も交流・連携の枠組み を維持・継続し、九州の各地 域との連携を強化していく。	
どとの連携			軸の広域連携の強化を図るものである。		D (H28年 度)	標	1 [1	0	1 🗓								成果指標の「九州地域など における交流・連携都市数 (累計)」については、協議 会活動が現在休止中のため、 適切な指標設定に修正する。 上記成果指標に代わり、四都 市連携の主要事業の効果を追 確に測定する新たな指標を追 加するもの。		攻との連携を強化していく。
			東カ州軸でけ東	連携事業の実施 (東九州軸での 活動)		実績	1 [1			1回 (毎年 度) -									
			崎などの都市との 連携構築に取り組む。			率	00.0 %	6												
				四都市間にて市 民割引料金を適 用する市施設数		標				52 施 設										
				用する巾施設数 (動物園、美術館、博物館など) ※指標追加	52施設	実績達					52施設 (毎年 度) -									
				火 10 冰 气机		连 成 率														